

普及活動情勢報告（令和8年1月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

水田の維持管理に向けて ～J A土佐くろしお水田維持管理対策研究会を開催～



活動方針を協議する研究会員

12月16日、『第7回J A土佐くろしお水田維持管理対策研究会』が開催され、新たに土佐くろしお村村営みのりを加えた研究会構成員16人が参加し、水田維持管理に関する課題を協議しました。

農業改良普及課は、研究会設立の経緯の確認、他地域での農地維持に関する優良事例の報告、地域の水稻農家等と協議する場の設置に向けた方針を提案しました。

参加者からは、具体的な協議の進め方について「地域のキーパーソンが必要」「田役が残っている地域から声かけしてみてもどうか」といった意見がありました。

今後、地域の水稻農家等も含めて水田維持に向けて直接協議する「水田維持管理対策協議会」の設立に向けて研究会活動を継続していきます。

光合成を意識して管理しましょう ～J A土佐くろしおキュウリ部会現地検討会～



環境データの活用方法を説明する職員

12月17、19、22日に、須崎市の生産者ほ場において、J A土佐くろしおキュウリ部会現地検討会が開催され、のべ20人が参加しました。

農業改良普及課は、SAWACHIや農技クラウドの活用による病害リスク及び光合成速度の見える化、温度や炭酸ガス濃度の違いによる光合成速度のシミュレーションなど、ハウス内環境データの活用方法について説明しました。

参加者からは、「シミュレーションが参考になった」「ハウス内温度が高くなりすぎないように注意する」との声が聞かれました。

農業改良普及課は今後も、キュウリの収量・品質向上に向けて、環境データを活用した栽培管理を支援していきます。

収量アップを目指して ～J A高知県津野山みょうが部会目慣らし会～



目慣らしをする生産者

12月19日、J A高知県津野山経済課「輝」で津野山みょうが部会目慣らし会が開催され、生産者9人が参加しました。

農業改良普及課は、J A営農指導員とともに今年度の栽培の振り返りと来作での病虫害防除対策の周知を行いました。

生産者からは、「暑さ対策のための補助の充実や、新しい技術の普及をしてほしい」「経費の高騰に対応できるよう単価を上げてほしい」という声が聞かれました。

農業改良普及課は今後も、普及活動を通じて生産者に関心のある話題提供と関連する指導を行っていきます。

厳寒期の管理を徹底しましょう ～JA土佐くろしおにら部会現地検討会～



情報提供をする普及指導員

12月19日、にら部会現地検討会が生産者ほ場で開催され、生産者12人が参加しました。

農業改良普及課は、厳寒期における栽培管理上の注意点及び品種比較試験の中間結果について情報提供を行いました。

生産者からは、「ハウス内湿度を適切に調整し白斑葉枯病の予防に努める」「新品種の種子が販売開始された際には、ほ場の一部で栽培してみたい」といった声がありました。

農業改良普及課は今後も、関係機関と連携し、巡回指導・調査研究を通じて、産地の生産力向上・安定化を目指します。

職場のルールを定めませんか？ ～須崎市で就業規則策定研修会開催～



雇用状況の聞き取りをする普及指導員

1月15日に、須崎農業振興センター会議室において、環境農業推進課主催の就業規則策定研修会が開催され、管内の農家3人が参加しました。

農業改良普及課は、専門技術員による講義の後、参加した農家の雇用状況等を聞き取り、個々の営農実態に応じた規則の定め方を助言しました。

参加者からは、「1日ではなく半日で帰ってもらう場合と休業の違いは？」「外国人実習生の場合は？」など積極的に質問が寄せられました。

農業改良普及課は今後も、就労環境整備の一環として就業規則の策定を支援をしていきます。